

令和2年度 施策評価シート

基本目標		地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	220	区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる
施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する
施策の目標	鉄道立体化による踏切事故防止や渋滞解消、また、道路のバリアフリー化等により、誰もが安全・安心で快適に暮らせる交通環境が整備されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	道路のバリアフリー整備延長									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	10,290				13,080					14,630
実績	10,290									

指標名	「区内の交通環境に満足している」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	79.0				82.0					85.0
実績	79.0									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
道路のバリアフリー整備延長は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会による道路景観整備工事等により増加している。 また、令和3年度以降についても、墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画に基づき、整備延長の増加が見込まれる。 東武伊勢崎線(とうきょうスカイツリー駅付近)立体化事業、自転車駐車場整備、公園等公衆トイレ整備事業など交通環境に関する様々な事業展開により、区民の交通環境への満足度も増加すると期待される。	H29	1,990,697
	H30	4,093,691
	R1	2,559,147

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	計画どおり事業は進んでいるが、目標以上の成果までは不明なため。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催にむけて、区民・来街者が安全で快適に利用できる交通環境を確実に整備していく必要があるため。	
【今後の具体的な方針】	
特に東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催前までは工事が錯綜するため、工程調整や進捗管理などを徹底し、事業を進めていく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
				評価対象年度		
1	道路バリアフリー整備事業費	258,312	6,789	265,101		現状維持
						令和元年度
2	北部地区幹線道路バリアフリー整備事業費	120,096	4,526	124,622		現状維持
						令和元年度
3	橋梁の架替・撤去事業費	0	9,087	9,087		現状維持
						令和元年度
4	公園便所改築事業費	4,510	11,316	15,826		改善・見直しのうえ継続
						令和元年度
5	公衆便所改築事業費	9,088	11,316	20,404		改善・見直しのうえ継続
						令和元年度
6	道路景観整備事業費	1,947	6,789	8,736		現状維持
						令和元年度
7	道路改良費(路面改修工事)	100,130	15,842	115,972		現状維持
						令和元年度
8	道路改良費(公共用地適正化)	40,428	6,789	47,217		現状維持
						令和元年度
9	オリンピック・パラリンピック競技会場周辺道路景観整備事業費	834,526	9,052	843,578		廃止を検討
						令和元年度
10	歩行者・自転車通行空間再整備事業費	217,831	6,789	224,620		現状維持
						令和元年度
11	錦糸町駅周辺自転車総合管理事業費	136,300	3,495	139,795	50	現状維持
					61	令和元年度
12	自転車駐車場等維持管理費	120,476	11,359	131,835	1,500	現状維持
					1,458	令和元年度
13	放置自転車対策費	74,017	10,486	84,503	930	現状維持
					538	令和元年度
14	自転車駐車場利用環境整備費	20,570	2,621	23,191	5	現状維持
					7	令和元年度
15	道路維持事業費	404,584	13,579	418,163		現状維持
						令和元年度

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果 評価対象年度
16	交通安全施設維持管理費	98,643	4,526	103,169		現状維持
						令和元年度
17	法定外公共物維持管理事業費	6,791	13,579	20,370		現状維持
						令和元年度
18	公衆便所維持管理費	65,842	11,316	77,158		現状維持
						令和元年度
19	橋梁維持費	1,188	6,789	7,977		現状維持
						令和元年度
20	道路台帳整備費	11,781	13,107	24,888	10,000	現状維持
					12,324	令和元年度
21	道路工事調整協議会事務費	23	3,495	3,518	50	現状維持
					37	令和元年度
22	駐車場維持管理費	6,692	1,748	8,440	13,000	現状維持
					16,451	令和元年度
23	スクールゾーン育成事業費	570	2,621	3,191	17	現状維持
					12	令和元年度
24	交通安全協会補助金	7,050	2,621	9,671	500	現状維持
					442	令和元年度
25	交通安全普及啓発費	1,004	2,621	3,625	500	現状維持
					442	令和元年度
26	公共用地境界確定事業費	1,199	32,330	33,529	2,000	現状維持
					2,372	令和元年度
27	法定外公共物・法定公共物移管事業費	807	29,709	30,516	5	現状維持
					6	令和元年度
28	道路、河川及び公園占用許可事務費(道路)	574	15,728	16,302	850	現状維持
					790	令和元年度
29	道路管理システム維持経費	3,892	3,495	7,387	2,500	現状維持
					2,466	令和元年度
30	道路、河川及び公園占用許可事務費(掘削)	24	12,233	12,257	250	現状維持
					304	令和元年度
31	機械式地下自転車駐車場整備費	5,467	2,621	8,088	300	廃止を検討
					118	平成30年度

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
32	地点名標識英語表記改善 事業費	4,785	6,789	11,574		廃止を検討
						令和元年度

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	道路バリアフリー整備延長(累計)				単 位	m
		最終目標値	目標年度		H28	基準年(H29)	H30	R1
		14,630	R7	目標	10,290	10,980	11,680	12,380
				実績	10,290	10,735	11,826	12,325
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	13,080	13,390	13,700	14,010	14,320	14,630
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業の進捗状況を具体的に把握できるため。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		H28	基準年(H29)	H30	R1	
85		R7	目標	79		80.5		
			実績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		82		83.5		85	85	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
歩道の有効幅員の確保、段差の解消といった道路改善を行い、歩道のバリアフリー化を図ることにより、区内の交通環境に満足する区民も増加する。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	事業実施に当たり、国庫補助金を活用するなどコスト削減を図っている。 事業成果は、地域住民だけでなく多くの来街者も恩恵を受けることができる。

課題・問題点
道路バリアフリー化の最終目標は無電柱化であるが、多額の事業費や期間がかかるため、まずは歩道のセミフラット化による段差解消を最優先とする。 広幅員の道路については、将来の無電柱化も考慮した歩車道構成を検討する必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	道路バリアフリー整備延長(累計)				単 位	m
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,735	R5	目 標	0	0	595	795
				実 績	0	0	595	795
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	795	1,065	1,415	1,735		
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業の進捗が把握できるバリアフリー整備延長を目標値とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
83.5		R5	目 標	79		80.5		
			実 績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		82		83.5		85		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
歩道の有効幅員の確保、段差の解消といった道路改善を行い、歩道のバリアフリー化を図ることにより、区内の交通環境に満足する区民も増加する。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	墨119号路線(曳舟川通り)は、水道局が本管更新工事を行うことから、復旧舗装工事を区が受託するなど全体工期短縮やコスト削減を図りながら整備を進めていく。

課題・問題点
都市計画道路である曳舟川通りは、拡幅計画はあるが整備時期は未定であるため、現況幅員内でのバリアフリー化を行う。 今後も北部地区におけるバリアフリー化を進捗させるためには、他の路線でも占用企業者工事に合わせて整備を行い、コストの削減を図る等の検討が必要である。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	架替え済橋梁数(累計)				単 位	橋
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		3	R7	目 標	0	0	0	1
				実 績	0	0	0	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	1	1	2	2	3	3
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業の進捗を具体的に把握できるため、架替え済の橋梁数を目標値とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
85		R7	目 標	79		80.5		
			実 績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		82		83.5		85	85	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
橋梁の架替えに伴う施設の老朽化対策や歩道の拡幅により、交通環境に対する区民満足度の増加が見込まれる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	安全な交通環境の維持のため、継続して老朽化橋梁を架け替える必要がある。 災害時に通行規制などが無いように、定期的な調査を行い、事業を進めていく。

課題・問題点
<p>予算の平準化、東京都の河川整備の進捗、近接する親水公園の再整備等を考慮して、維持管理計画(整備スケジュール)を修正する必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	改築数(累計)				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		54	R7	目 標	36	39	40	42
				実 績	36	39	40	40
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	44	46	48	50	52	54
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	老朽度や利用状況、今後利用が見込まれるトイレの改築数を目標値とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「公園・児童遊園に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
28		R7	目 標	24		25		
			実 績	24		22.9		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		26		27		28	28	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
だれもが安全・安心・快適に利用できるトイレの整備が、公園・児童遊園に満足している区民の割合につながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	現在の改築ペースでは、老朽化のスピードに改築が追い付かないため、トイレの適正配置を検討するとともに、トイレの改築を実施していく。 また、トイレの洋式化を進め、だれもが安心・安全・快適に利用できるトイレの環境整備を行う。

課題・問題点
地域バランスに配慮しながら、トイレの統廃合及びトイレのないエリアへの新設を行うために、利用状況の実態調査を行い、適切な配置計画・改築改修計画を作成する必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	改築数(累計)				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		27	R7	目標	18	19	20	21
				実績	18	19	20	20
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	22	23	24	25	26	27
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	老朽度や利用状況、今後利用が見込まれるトイレの改築数を目標値とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「公園・児童遊園に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
28		R7	目標	24		25		
			実績	24		22.9		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		26		27		28	28	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
だれもが安全・安心・快適に利用できるトイレの整備が、公園・児童遊園に満足している区民の割合につながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	現在の改築ペースでは、老朽化のスピードに改築が追い付かないため、トイレの適正配置を検討するとともに、トイレの改築を実施していく。 また、トイレの洋式化を進め、だれもが安心・安全・快適に利用できるトイレの環境整備を行う。

課題・問題点
地域バランスに配慮しながら、トイレの統廃合及びトイレのないエリアへの新設を行うために、利用状況の実態調査を行い、適切な配置計画・改築改修計画を作成する必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	本事業における無電柱化整備延長				単 位	m
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		230	R6	目 標				
				実 績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標					230		
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	無電柱化整備計画に計上している墨29号路線（見番通り）の整備延長を目標値とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
83.5		R5	目 標	79		80.5		
			実 績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	82		83.5	83.5				
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
無電柱化整備及び道路のバリアフリー化を行うことにより、道路環境の改善が図られ、区内の交通環境に対する区民満足度も上昇すると考えられる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	財政推計を考慮しながら、無電柱化対象路線の優先順位を定めて整備していく必要がある。

課題・問題点
<p>電線共同溝整備は、多額の事業費や長期間の道路使用制限を強いられるため、管路の浅層埋設などの低コスト手法の導入や電線管理者が無電柱化を実施する単独地中化方式など様々な手法の検討や活用により、事業費削減を行う必要がある。</p> <p>今後、国や都からの区市町村の無電柱化に係る財政的・技術的支援を積極的に受けるためには、都が実施する研修会等への参加による区職員の技術力向上が必要である。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	路面改修事業計画に基づく路面改修延長（累 計）				単 位	m
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		6,660	R7	目 標	900	1,760	2,380	3,000
				実 績	1,046	1,319	1,709	1,944
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	3,560	4,180	4,800	5,420	6,040	6,660
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	路面改修事業計画（H22策定H23～28、H28策定H29～R3）における路面改修延長累計を目標値とし た。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
85		R7	目 標	79		80.5		
			実 績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		82		83.5		85	85	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
道路の損傷等を改善させ、歩行者や車両等が安全で快適に通行できる環境を整備することが、交通環境に 満足している区民割合を高めることに繋がる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	路面の損傷度により優先順位をつけて整備を進めるほか、占用企業者工事と調整を図り、効率的、経済的に事業を進めていく。

課題・問題点
<p>年度末工事の増加、請負業者の人手不足などにより工事契約が不調になることが多いため、請負業者が余裕のある早期の工事発注に努める。 また、適正な進捗を図るため、計画に沿って事業を進めていく必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	整備件数(累計)				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		11	R7	目標		1	4	5
				実績		0	1	3
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	6	7	8	9	10	11
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	沿道区民から相談があり、交渉成立した場合に整備を行うため、過去の経験から目標値を設定した。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「交通の便に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
85		R7	目標	79		80.5		
			実績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		82		83.5		85	85	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
不法占拠物件が撤去された後に歩道整備等を行うことにより、区内の交通環境に満足する区民も増加する。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	大幅な進捗は困難であるが、区民からの相談を継続的に実施することにより適正な管理形態に整備していく。

課題・問題点
<p>建築計画が発生した際に実施することになり、建築計画の遅れにより実施年度に変更が生じる。事業の必要性は極めて高く、建築事業者等との調整を密に図り事業の進捗を図っていく。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	本事業による電線類の地中化整備延長				単 位	m
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,090	R1	目標	0	0	0	1,090
				実績	0	0	0	1,090
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標							
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業の進捗を具体的に図ることができ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催前年度までに整備が完了する数値を目標値とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
80.5		R1	目標	79		80.5		
			実績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場周辺の道路環境を改善することにより、区内の交通環境に対する区民満足度も上昇すると考えられる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
廃止を検討	電線類地中化を含め、歩道のカラー化、バリアフリー化による道路景観整備が完了したため、事業の目的を達成した。

課題・問題点
令和元年度に整備を完了した。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	自転車通行空間整備延長(累計)				単 位	km
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		8.7	R7	目標	0	0	0	2.1
				実績	0	0	0	2.1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2.4	3.8	4.5	6.7	8.2	8.7
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業の進捗が把握できる自転車通行空間の整備延長を目標値とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
85		R7	目標	79		80.5		
			実績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		82		83.5		85	85	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
歩行者と自転車の通行空間の分離、自転車レーンの設置、歩道のバリアフリー化等といった道路改善を行うことにより、区内の交通環境に満足する区民も増加する。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	都道・国道に自転車レーン等の設置が増えていることから、幹線道路とのネットワーク化を進めるため区道にも設置する必要がある。

課題・問題点
<p>今後策定する墨田区自転車活用推進計画に合わせて、都道、国道などの幹線道路の自転車レーン整備状況を踏まえた区道の設置計画を策定し、ネットワーク化を進めていく必要がある。</p>

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	錦糸町駅周辺のパトロール実施回数				単位	日/年
		最終目標値	目標年度		H28	基準年(H29)	H30	R1
		365	R7	目標	-	365	365	365
				実績	-	365	365	365
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	365	365	365	365	365	365	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	継続的にパトロールをすることで適正管理が維持できる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	自転車放置台数のワースト順位				単位	位
最終目標値		目標年度		H28	基準年(H29)	H30	R1	
50		R7	目標	-	11	30	50	
			実績	-	30	53	61	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	50	50	50	50	50	50		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
東京都が発表する駅前放置台数ワースト順位を下げるのが目標である。(駅前放置自転車等の現況と対策)								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	最終目標値である50位を達成したため、今後も維持できるよう努めていく。

課題・問題点
<p>高齢者の雇用確保と業務の効率化のバランスを取ることが課題である。 平成29年度から委託を開始して4年目となっており、令和3年度には令和4年度に向けた業務委託の更新準備が必要となる。</p>

令和2年度 事務事業評価シート

施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する	部内優先順位
事業名	自転車駐車場等維持管理費		12
目的	区が管理する自転車駐車場及び自転車保管所の適正な管理運営が行われている。		主管課・係（担当）
			土木管理課交通安全担当 03-5608-6203
対象者	自転車利用者		
根拠法令 関連計画	墨田区自転車の利用秩序及び自転車駐車場の整備に関する条例 自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律		
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤4・非常勤2、委託先：墨田区シルバー人材センター
事業内容	墨田区自転車の利用秩序及び自転車駐車場の整備に関する条例に基づき、第1種、第2種及び第3種特定自転車駐車場を通勤・通学等のために利用できる駅周辺の自転車駐車場として適正に管理運営する。		
経過	開始年度	平成25年度	終了予定 なし
	平成25年度 放置自転車に関する業務と、自転車駐車場等の管理運営に関する業務を分割。 平成29年度 錦糸町駅周辺（北口・南口・牡丹橋・第3種・保管所）の管理運営に係る事業を駅周辺一括管理事業として分割。（機器借上・保守、施設の設備点検保守等は本予算にて計上）		
議会質問 の状況	[平成30年] 押上駅前自転車駐車場のラックの故障について [令和元年 決特] 押上駅前自転車駐車場のラックの故障について		
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 特になし		

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		177,625	182,078	104,652	118,609	125,510	125,271
決算額（令和2年度は見込み）		171,929	173,462	100,797	115,432	120,476	125,271
財源	国						
	都						
	その他	115,470	112,858	100,797	115,432	120,476	125,271
一般財源		56,459	60,604	0	0	0	0
執行率（％）		96.8%	95.3%	96.3%	97.3%	96.0%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	光熱水費等	17,201	需用費	光熱水費等	19,624	需用費	光熱水費等	21,247
役務費	後納郵便、電話料	4,617	役務費	後納郵便、電話料	5,401	役務費	後納郵便、電話料	5,938
委託料	自転車駐車場管理委託等	44,796	委託料	自転車駐車場管理委託等	44,831	委託料	自転車駐車場管理委託等	46,397
使用料及び賃借料	ラック等の借上、用地の賃借	41,423	使用料及び賃借料	ラック等の借上、用地の賃借	44,693	使用料及び賃借料	ラック等の借上、用地の賃借	44,444
工事請負費	ラック補修工事等	5,871	工事請負費	ラック補修工事等	4,633	工事請負費	ラック補修工事等	5,200

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	自転車駐車場の収容台数				単位	台/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		11,400	R1	目標	10,728	10,728	11,400	11,400
				実績	10,728	10,999	11,247	11,184
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	11,400	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	自転車駐車場の収容台数を増やすことで区民ニーズに応える。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	自転車駐車場申請者キャンセル待ち数(第1種及び第2種の定期利用)				単位	人/年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
200		R1	目標	制度なし	2,152	2,000	1,500	
			実績	制度なし	1,882	1,431	1,458	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	1,000	800	600	400	300	200		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
キャンセル待ちの区民が多いとニーズに応えていないことになる。(キャンセル待ち数を減らしていくことでニーズに応える。) 区が設置する収容台数は増加させない(減少する可能性もある)が、駅周辺全体の自転車駐車場の管理(数値化困難)を適正に行うことで、キャンセル待ちを減少させていく。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	自転車駐車場については、継続して運営するが、民間委託化も検討していく。

課題・問題点
民間活力やIoT導入による自転車駐車場利用者の利便性向上と効率的な運営を目指す。

令和2年度 事務事業評価シート

施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する	部内優先順位
事業名	放置自転車対策費		13
目的	駅周辺等の放置自転車による生活環境の悪化を防止し、安全で快適なまちとなっている。		主管課・係（担当）
			土木管理課交通安全担当 03-5608-6203
対象者	自転車利用者		
根拠法令 関連計画	自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律 墨田区自転車の利用秩序及び自転車駐車場の整備に関する条例		
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤4・非常勤2、委託先：墨田区シルバー人材センター
事業内容	<p>啓発キャンペーンの実施 自転車整理員による日常的な周知活動や呼びかけの他、毎年都内で行われる「駅前放置自転車追放キャンペーン」や、放置状況が顕著な駅周辺で個別に行うキャンペーンを通して、指導・啓発を行っている。</p> <p>放置自転車の撤去 森下駅を含む計14駅の周辺に自転車放置禁止区域を定め、即時撤去を実施している。</p> <p>撤去後は保管所へ移送・保管し、返還業務を行う。撤去の公示は、所有者への通知又は告示により行い、保管期間経過後も引取りのない撤去自転車については、自転車の状態に応じてリサイクル、海外供与、売却、廃棄といった処分を行っている。</p>		
経過	開始年度	昭和60年度	終了予定
	なし		
<p>平成29年度から、当時区内で放置自転車が一番多かった錦糸町駅周辺の撤去活動を民間業者に委託した。</p> <p>錦糸町駅周辺の放置自転車台数の推移：782台(H25)、597台(H26)、544台(H27)、437台(H28)、214台(H29)、146台(H30)、118台(令和元)</p>			
議会質問 の状況	<p>[平成30年 決特] 放置自転車の状況について ほか [令和元年 決特] ライフセントラルスクエア押上駅前店前の放置自転車について</p>		
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 放置自転車に関するキャンペーン 春・秋実施		

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		102,654	108,036	74,915	75,880	75,891	83,564
決算額（令和2年度は見込み）		99,100	105,514	72,860	71,559	74,017	83,564
財源	国						
	都						
	その他	16,400	20,000	20,400	36,150	39,125	49,252
一般財源		82,700	85,514	52,460	35,409	34,892	34,312
執行率（％）		96.5%	97.7%	97.3%	94.3%	97.5%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品費等	261	需用費	消耗品費等	1,762	需用費	消耗品費等	3,063
役務費	郵送料等	501	役務費	郵送料等	318	役務費	郵送料等	1,150
委託料	システム保守等	61,271	委託料	システム保守等	62,232	委託料	システム保守等	69,537
使用料及び賃借料	放置自転車撤去車両借上	9,506	使用料及び賃借料	放置自転車撤去車両借上	9,685	使用料及び賃借料	放置自転車撤去車両借上	9,794
負担金補助及び交付金	全自連会費	20	負担金補助及び交付金	全自連会費	20	負担金補助及び交付金	全自連会費	20

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	放置自転車撤去台数				単 位	台/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		7,000	R4	目標	13,000	12,000	11,000	10,000
				実績	13,155	12,122	11,932	10,452
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	9,000	8,000	7,000				
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>自転車撤去台数が明確な指標となる。 自転車撤去作業により放置禁止の周知が進み撤去台数が減少する。 「墨田区自転車利用総合方針」の期間(R4年度まで)とする。</p>							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	区内全駅の放置自転車台数				単 位	台/年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
500		R4	目標	1,350	1,210	1,070	930	
			実績	1,302	929	897	538	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	790	650	500					
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>区内全駅の放置自転車台数の推移によって、効果が確認できる。 「墨田区自転車利用総合方針」の期間(R4年度まで)とする。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	民間活力導入が放置自転車の減少に効果を上げているため、今後も継続する。

課題・問題点
<p>今後の課題等を整理して、墨田区自転車活用計画の策定及び墨田区自転車利用総合方針を改定する。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	修繕した自転車駐車場の数(累計)				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度		H28	基準年(H29)	H30	R 1
		30	R2	目標	-	9	18	27
				実績	-	9	14	23
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	30						
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	施設修繕によって安全で快適に利用できる環境が維持できる。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	自転車駐車場施設に関する広聴カードによる要望・苦情の数				単 位	件/年
最終目標値		目標年度		H28	基準年(H29)	H30	R 1	
5		R2	目標	-	5	5	5	
			実績	-	9	8	7	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	5							
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
自転車駐車場に対しての要望・苦情の数が減少することで利用環境の向上が図れる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	現在、適正な維持管理ができており、今後も継続する。

課題・問題点
運用に伴うシステムの改修や、利用者の利便性の向上を考え柔軟に対応する必要がある。 全施設が大幅に老朽化しているため、高額な修繕費用が継続的に必要となる。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	道路維持補修件数				単 位	件/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		200	R7	目 標	200	200	200	200
				実 績	216	245	219	208
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	200	200	200	200	200	200
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	道路の機能を維持するために施工する維持補修件数を活動指標とした。 目標値は、本区の道路機能を一定水準に保つために必要とする維持補修件数を近年の実績から200件とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	「交通の安全性に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
30		R7	目 標	26		27		
			実 績	26.9		29.6		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		28		29		30	30	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
道路維持事業で、安全、快適に通行できる状態を確保することが、交通の安全性に満足している区民割合を高めることに繋がる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	事業成果は地域住民だけでなく、多くの来訪者も恩恵を受けている。 計画的かつ路線ごとに行う工事(路面改修工事や企業での面的整備工事)との連携を十分に図る必要がある。

課題・問題点
時間の経過とともに施設の老朽化が進み、あわせて近年工事費が増加傾向にある。 よって、維持補修工事1件当たり費用が増えるため、必要最小限に施工規模を縮小したり、緊急性の高い補修工事に絞って施工する等、更に効率的かつ経済的な維持管理を継続していく必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	交通安全施設改修件数				単 位	件/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		90	R7	目 標	90	90	90	90
				実 績	101	88	70	204
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	150	150	150	150	150	150
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	老朽化や危険な箇所等を良好な状態に保つように維持補修しているため、補修件数を目標値とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「交通の安全性に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
30		R7	目 標	26		27		
			実 績	26.9		29.6		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		28		29		30	30	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交通安全施設維持管理で、ガードレール等を維持補修し、安全・快適に通行できる状態を確保することが、交通の安全性に満足している区民割合を高めることにつながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	緊急的な修繕に対応できるために必要である。 また、道路ストック総点検結果や日常点検等により、計画的な修繕を行う必要がある

課題・問題点
施設の老朽化が進んでおり、応急的な補修では限界があるので、予防計画的な修繕工事が必要である。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	法定外公共物維持補修件数				単 位	件/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		10	R7	目 標	10	10	10	10
				実 績	4	7	6	5
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	10	10	10	10	10	10
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	法定外公共物の機能を維持するために施工する維持補修件数を活動指標とした。 目標値は、本区の法定外公共物の機能を一定水準に保つために必要とする維持補修件数を近年の実績から10件とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	「交通の安全性に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
30		R7	目 標	26		27		
			実 績	26.9		29.6		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		28		29		30	30	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
法定外公共物維持管理事業費で補修することで、快適な交通環境が確保され、交通の安全性に満足している区民割合を高めることにつながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	通路としての重要な役割を持っているため、継続的な維持管理が必要と考える。

課題・問題点
<p>時間の経過とともに施設の老朽化が進み、あわせて近年工事費が増加傾向にある。よって、維持補修工事1件当たり費用が増えるため、必要最小限に施工規模を縮小したり、緊急性の高い補修工事に絞って施工する等、更に効率的かつ経済的な維持管理を継続していく必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	公衆便所清掃回数				単 位	回 / 日
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1.2	R7	目 標	1.1	1.1	1.1	1.1
				実 績	1.1	1.1	1.1	1.1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	1日1回の通常清掃、利用頻度の高いトイレは1日2回清掃としていることから、1日当たりの平均清掃回数を目標値とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	「公園・児童遊園に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
28		R7	目 標	24		25		
			実 績	24		22.9		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		26		27		28	28	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
トイレ施設の管理状況が、公園・児童遊園に満足している区民の割合につながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	公衆衛生上必要な施設であり、利用者が快適に利用できる環境に保つため、継続して清掃等を行う。

課題・問題点
老朽化やバリアフリー未対応など、清掃のみでは利用者が快適とはいえないトイレが多数あるので、公衆便所改築事業において、改築等を行う必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	橋梁維持補修件数				単 位	橋/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1	R7	目 標	1	1	1	1
				実 績	3	3	5	3
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	1	1	1	1	1	1
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	橋梁の機能を維持するために施工する維持補修件数を活動指標とした。 目標値は、機能維持に必要かつ緊急性の高い維持補修工事に絞るとして1件とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「交通の安全性に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
30		R7	目 標	26		27		
			実 績	26.9		29.6		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		28		29		30	30	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
橋梁維持事業で緊急補修し、橋梁の安全性を高めることが、交通の安全性に満足してる区民割合を高めることに繋がる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	橋梁の安全性確保のため、緊急的な補修工事は必要である。 計画的な修繕工事と連携し、効率よく事業を推進していく。

課題・問題点
橋梁の老朽化が進んでおり、必要最小限の応急的な維持補修工事件数が増加している。 応急的な補修では限界があるので、計画的な修繕工事が必要である。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	台帳補正箇所数(調書の面積、幅員等を補正した区間数)				単 位	箇所/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		350	R7	目 標	350	350	350	350
				実 績	366	397	344	315
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	350	350	350	350	350	350	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	道路の認定、廃止、区域変更等により形状や数値が変化した箇所(細街路事業、地籍調査事業を含む)を遅滞なく正確に補正する必要がある。(例年、300~400箇所である。)							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	道路台帳現況図等の閲覧・複写交付・証明交付等 窓口申請件数				単 位	件/年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
10,000		R7	目 標	10,000	10,000	10,000	10,000	
			実 績	10,676	10,762	12,571	12,324	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
ウェブ閲覧サービスを拡充することにより、窓口件数を減少させることができる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	閲覧、複写・証明の交付申請者等の区民ニーズがあり、今後も継続していく。

課題・問題点
ウェブ閲覧サービスの操作方法や拡充について要望がある。 情報の拡充や利用者側の多様なインターネット環境に対応し、道路台帳現況図データの軽量化等を図り、ウェブ閲覧システムを安定的に提供していくことが課題である。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	調整会議の開催数				単 位	回/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		6	R7	目標	6	6	6	6
				実績	6	6	6	6
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	6	6	6	6	6	6	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	2か月毎の調整会議を各関係機関と行うことによって、工事調整を円滑に行うことができる。 なお、占用許可手続を電子化したことで、事務処理の効率化が図られている。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	競合箇所の調整件数				単 位	件/年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
50		R7	目標	50	50	50	50	
			実績	45	47	53	37	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	50	50	50	50	50	50		
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
競合箇所は各関係機関の工事計画によるが、今後も大きな変動はなく推移すると考えられる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	各関係機関には、工期短縮及び競合工事の施工を求めている。

課題・問題点
区道を維持していく上で必要な安全管理を徹底するとともに、道路の掘り返し抑制に努める必要がある。

令和2年度 事務事業評価シート

施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する	部内優先順位
事業名	駐車場維持管理費		22
目的	隅田公園来園者、少年野球場利用者及び東墨田地域の自動車所有者の利便性が確保されている。		主管課・係（担当）
			土木管理課交通安全担当 03-5608-6203
対象者	東墨田駐車場：東墨田地区に住所あるいは事業所を有するか、その事業所に勤務する者 隅田公園自動車駐車場：隅田公園来園者、少年野球場利用者		
根拠法令 関連計画	墨田区東墨田駐車場運営要綱 墨田区立公園条例 墨田区立公園条例施行規則		
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤1、委託先：墨田区シルバー人材センター外
事業内容	東墨田駐車場 駐車場利用希望者の申請受付、駐車契約者の各種申請受付、使用料の納付管理 〔委託業者への主な委託内容〕 駐車場内の管理、点検、清掃等		
	隅田公園自動車駐車場 〔委託業者への主な委託内容〕 駐車場内の管理、点検、清掃 精算機の管理 収納金の管理及び区への納付		
経過	開始年度	平成9年度	終了予定
	なし		
議会質問の状況	東墨田駐車場 平成9年度 平成28年度まで東京都から20年間の無償貸与 平成29年度 令和8年度まで10年間の無償貸与(更新)		
	隅田公園自動車駐車場 隅田公園内の屋内プール体育館の解体によって更地となる土地について、跡地利用計画が決定するまでの暫定的な土地活用として、隅田公園来園者のための自動車駐車場を平成25年4月1日に開設した。		
議会質問の状況	〔平成27年決算特別委員会〕 隅田公園自動車駐車場の有効活用について		
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 特になし		

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		10,401	10,346	9,975	6,227	8,399	9,521
決算額（令和2年度は見込み）		10,208	10,216	9,808	6,077	6,692	9,521
財源	国						
	都						
	その他	10,208	10,216	9,808	6,077	6,692	9,521
一般財源		0	0	0	0	0	0
執行率（％）		98.1%	98.7%	98.3%	97.6%	79.7%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	電気料	251	需用費	電気料	189	需用費	電気料	252
一般需要費	東墨田駐車場納付書印刷	39	一般需要費	隅田公園自動車駐車場特注駐車券購入	153	一般需要費	隅田公園自動車駐車場特注駐車券購入	914
役務費	郵送料等	98	役務費	郵送料等	86	役務費	郵送料等	176
委託料	管理委託料等	5,065	委託料	管理委託料等	5,664	委託料	管理委託料等	7,579
工事請負費	東墨田駐車場維持補修工事	600	工事請負費	東墨田駐車場維持補修工事	600	工事請負費	東墨田駐車場維持補修工事	600

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	駐車場の設置台数				単 位	台
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		140	R7	目標	140	140	140	140
				実績	140	140	140	140
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	140	140	140	140	140	140	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>駐車場(東墨田115台、隅田公園25台、計140台) 設置台数は現状で充足されている。</p>							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	隅田公園自動車駐車場の利用台数				単 位	台 / 年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
13,000		R7	目標	13,000	13,000	13,000	13,000	
			実績	13,381	13,720	14,471	16,451	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>利用台数で利用の増減が把握できる。 東墨田駐車場利用台数については、おおむね75台 / 月で推移している。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	東墨田駐車場は東墨田地区の在住在勤者に必要な施設であり、隅田公園自動車駐車場は公園利用者や少年野球場の利用者にとって必要な施設であることから、今後も継続する。

課題・問題点
<p>【東墨田駐車場】 20年以上経過し、老朽化による影響からか、近年駐車場内の陥没やネットフェンスの破損などが発生している。年々駐車契約者数が増加しており、速やかに安全で快適な利用環境を整える必要があるが、2年度中に全ての改修ができるほどの予算がないため、優先度を設けて改修する必要がある。</p> <p>【隅田公園自動車駐車場】 砂利舗装の路面や区画線の改修が必要である。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	補助金交付団体数				単 位	団体 / 年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		25	R7	目標	15	15	17	17
				実績	15	20	21	20
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	19	19	21	21	23	25
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	スクールゾーン地区対策連絡会に加盟している小学校のうち交付を受けて活動を行っている団体を指標とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	区内小学生の交通事故死傷者数				単 位	人 / 年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
0		R7	目標	22	19	19	17	
			実績	22	19	15	12	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		10	5	3	0	0	0	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交通事故防止に関する活動を支援することで交通安全意識の向上が図られ、交通事故死傷者数の減少につながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	年々、小学生の交通事故死傷者数が減少している。 これは各団体に交付している補助金を有効に活用して活動が行われているからだと言える。 今後も、更なる交通事故減少のため、本事業を継続していく必要がある。

課題・問題点
補助金の交付に当たっては前年度に各団体に意向確認を行い、希望する団体に対して交付しているが、ほぼ毎年度、補助金を使い切らずに返戻される団体が一部ある。 また、前年度に意向確認を行っているため、新年度になり役員等が変更されると、補助金の交付を辞退する団体もある。

令和2年度 補助金評価シート

補助金 名称	墨田区スクールゾーンモデル地区対策連絡会及び自主推進地区対策連絡会補助金			主管課・係（担当）		
根拠法令	墨田区スクールゾーンモデル地区等設置要綱 墨田区スクールゾーンモデル地区対策連絡会及び自主推進地区対策連絡会補助金交付要綱			土木管理課交通安全担当		
補助概要	各小学校からの申請に基づき、スクールゾーン地区として指定する。この場合、最初の3年間はモデル地区とし、その後は自主推進地区とする。モデル地区には年間95,000円、自主推進地区には年間30,000円の補助金を交付する。			03-5608-6203		
目的	スクールゾーン内において交通事故がなくなっている。					
対象	スクールゾーン対策連絡会（25団体）					
基準	区独自基準					
補助条件	以下の活動等に係る経費を対象に補助金を交付する。余剰が生じたときは、区に返還すること。 交通事故防止活動に係る経費 活動物資購入に係る経費 会議運営に係る経費					
経過	開始年度	昭和56年度	終了予定	なし		
	補助金交付団体数 平成26年度 自主推進地区対策連絡会 18団体 平成27年度 自主推進地区対策連絡会 16団体 平成28年度 自主推進地区対策連絡会 15団体 平成29年度 自主推進地区対策連絡会 20団体 平成30年度 自主推進地区対策連絡会 21団体 令和元年度 自主推進地区対策連絡会 20団体（うち1団体戻入れ）					
議会質問 の状況	[平成29年決算特別委員会] スクールゾーンの危険箇所への対応について					
その他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 特になし					

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		750	450	600	630	660	660
決算額（令和2年度は見込み）		435	450	584	628	570	660
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		435	450	584	628	570	660
執行率（％）		58.0%	100.0%	97.3%	99.7%	86.4%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	補助金交付団体数				単位	団体/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		25	R7	目標	15	15	17	17
				実績	15	20	21	20
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	19	19	21	21	23	25
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	スクールゾーン地区対策連絡会に加盟している小学校のうち交付を受けて活動を行っている団体を指標とした。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	区内小学生の交通事故死傷者数				単位	人/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		0	R7	目標	22	19	19	17
				実績	22	19	15	12
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		10	5	3	0	0	0	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交通事故防止に関する活動を支援することで交通安全意識の向上が図られ、交通事故死傷者数の減少につながる。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		<p>年々、小学生の交通事故死傷者数が減少している。</p> <p>このことから、各団体において、児童の交通事故防止活動のため、補助金を有効に活用していると考えられる。</p> <p>今後も、更なる交通事故減少のため、本事業を継続していく必要がある。</p>						

課題・問題点	
<p>補助金の交付に当たっては前年度に各団体に意向確認を行い、希望する団体に対して交付しているが、ほぼ毎年度、補助金を使い切らずに返戻される団体が一部ある。</p> <p>また、前年度に意向確認を行っているため、新年度になり役員等が変更されると、補助金の交付を辞退する団体もある。</p> <p>事業自体は継続していく必要があるが、補助金額、補助金対象項目や交付希望の確認については、見直しの必要があると考える。</p>	

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	道路標示溶着延長				単 位	m / 年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		6,900	R7	目 標	6,900	6,900	6,900	6,900
				実 績	6,941	7,396	7,160	7,439
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区道上における区画線の道路標示溶着を行うことで、歩行者や車両の通行位置が明確になり、このことで交通事故防止の向上が図られていることが確認できる。 目標値については、交通事故防止に必要な延長とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	交通事故発生件数				単 位	件 / 年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
200		R7	目 標	600	550	550	500	
			実 績	554	536	424	442	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	450	400	350	300	250	200		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交通安全意識の向上が交通事故件数の減少につながっていく。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	令和元年度は、交通事故件数が増加しているが、各協会において、交通事故防止のため、補助金を有効に活用していることは、収支結果報告から明らかであると考えられる。また、道路標示溶着についても、対象箇所が依然として区内に多数あるため、継続して本事業により支援する必要がある。 今後も、更なる交通事故減少のため、本事業を継続していく必要がある。

課題・問題点
近年、高齢自動車運転者が関与する事故や自転車利用者の増加に伴う事故が大きな話題になっている。これらは人口形成や生活様式の変化によるものだと考えられるが、交通安全協会からも活動の実施内容が多様化しており、現在の補助金額では今後の活動が思うように進まないため増額してほしいとの要望があった。交通事故防止活動は区や警察でも行っているが、交通事故件数の減少には交通安全協会の活動が欠かせない。令和元年度は交通事故件数が増加しているが、更なる増加を防ぐためには補助金額の増額見直しが必要だと考える。

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	道路標示溶着延長				単位	m/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		6,900	R7	目標	6,900	6,900	6,900	6,900
				実績	6,941	7,396	7,160	7,439
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区道上における区画線の道路標示溶着を行うことで、歩行者や車両の通行位置が明確になり、このことで交通事故防止の向上が図られていることが確認できる。 目標値については、交通事故防止に必要な延長とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	交通事故発生件数				単位	件/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		200	R7	目標	600	550	550	500
				実績	554	536	424	442
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		450	400	350	300	250	200	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交通安全意識の向上が交通事故件数の減少につながっていく。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		令和元年度は、交通事故件数が増加しているが、各協会において、交通事故防止のため、補助金を有効に活用していることは、収支結果報告から明らかである。また、道路標示溶着についても、対象箇所が依然として区内に多数あるため、継続して本事業により支援する必要である。 今後も、更なる交通事故減少のため、本事業を継続していく必要がある。						

課題・問題点	
<p>近年、高齢自動車運転者が関与する事故や自転車利用者の増加に伴う事故が大きな話題になっている。</p> <p>これらは人口形成や生活様式の変化によるものだと考えられるが、交通安全協会からも活動の実施内容が多様化しており、現在の補助金額では今後の活動が思うように進まないため増額してほしいとの要望があった。</p> <p>交通事故防止活動は区や警察でも行っているが、交通事故件数の減少には交通安全協会の活動が欠かせない。</p> <p>令和元年度は交通事故件数が増加しているが、更なる増加を防ぐためには補助金額の増額見直しが必要だと考える。</p>	

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	啓発運動実施回数				単 位	回 / 年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		6	R7	目標	6	6	6	6
				実績	7	6	7	7
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	6	6	6	6	6	6
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	実施するたびに交通安全意識を再確認し、交通事故防止やマナー向上につながる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	交通事故発生件数				単 位	件 / 年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
200		R7	目標	600	550	550	500	
			実績	554	536	424	442	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		450	400	350	300	250	200	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交通安全を意識していれば行動に反映され、交通事故件数の減少につながっていく。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	本事業では、年齢層に応じた交通安全の普及啓発活動や、交通安全運動を通じて、交通安全協会や町会等と連携し、交通事故防止活動を行っている。令和元年度は、交通事故件数が増加しており、今後事故発生件数を減少させるため、本啓発活動の回数を増やし継続していく必要がある。

課題・問題点
交通安全運動等を通じて、警察や交通安全協会は交通事故防止のために様々な活動をしている。一方、区は毎年度、ほぼ同じ活動の実施にとどまっている。いずれも交通事故防止に一定の効果があると言えるが、警察や交通安全協会のように、年齢層に応じた交通安全の普及啓発活動や、その年の交通事故の特徴に応じた事故防止活動を行う等、効果的な活動が求められる。

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	受理件数				単 位	件 / 年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		90	R7	目標	90	90	90	90
				実績	126	125	142	127
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	90	90	90	90	90	90
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	境界確定・確認は、申請主義である。(目標値については、例年の実績から算出)							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	確定・確認延長				単 位	m / 年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
2,000		R7	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	
			実績	2,097	1,890	2,467	2,372	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
道路、公園等の境界を確定・確認することで管理区域が明確となる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	道路、公園等の公共施設の土地境界で未確定の場所があることから、今後も継続して事業を実施していく必要がある。

課題・問題点
<p>担当職員には、関係法令や測量に関する知識が求められるので、これらの知識を高める職員育成を行っていく。境界確定や道路区域確認の調査・測量費用は、原則申請者負担となる。境界確定が完了していても、復元情報が乏しいと復元が困難になることがある。</p>

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	境界確定 + 地籍調査延長				単位	m / 年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5,000	R7	目標	3,000	3,000	3,000	3,000
				実績	3,546	3,528	3,790	4,703
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	無地番地の登記を行うには、登記する土地の周囲の境界を確認しておく必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	登記筆数				単位	筆 / 年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
5		R7	目標	5	5	5	5	
			実績	7	7	17	6	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	5	5	5	5	5	5		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
所有権保存登記をすることで、第三者への対抗要件が備わる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	境界確定や地籍調査が完了した箇所、登記が可能な法定・法定外公共物について、速やかに登記を行っていく。

課題・問題点
官民境界について、土地境界確定協議又は地籍調査における境界確定、確認が行われないと表示登記及び所有権保存登記ができない。

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	道路占用パトロール件数				単 位	件 / 年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		30	R7	目標	36	36	36	36
				実績	36	36	36	36
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	36	36	30	30	30	30
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	道路等の違法な占用については是正指導を行っている。 今後さらなる適正化を図り、パトロールの数を減らしていく。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	道路占用許可件数(突き出し看板・足場等)				単 位	件 / 年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
850		R7	目標	850	850	850	850	
			実績	869	856	640	790	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		850	850	850	850	850	850	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
道路法に基づく道路占用申請に対する許可状況を把握する。ただし、許可件数についてはその時の社会状況に大きく左右される。(目標値については、平年の実績から算出)								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	許可件数については、社会経済状況の影響を大きく受けることがあるが、今後も公平公正な許可事務を行っていく。

課題・問題点
道路等の違法物件の是正指導については、短期間で解消できず粘り強く指導を要するものもある。

令和2年度 事務事業評価シート

施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する	部内優先順位
事業名	道路管理システム維持経費		29
目的	道路空間の有効利用のため、道路工事調整業務、道路占用許可申請業務及び道路占用物件の管理の合理化・高度化が図られている。		主管課・係（担当）
			土木管理課占用・監察担当 03-5608-6283
対象者	システム参加者（区、占用企業者（NTT、東京電力、東京ガス、東京都水道局、東京都下水道局等））		
根拠法令 関連計画	道路法、墨田区道路占用規則		
実施基準	法令基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤3、委託先：一般財団法人道路管理センター
事業内容	道路工事調整業務 道路工事調整会議で使用する調書及び資料図を作成する。		
	道路占用許可申請業務 道路占用許可申請書、着手届、竣工届等をオンラインで申請受付・許可する。		
	道路占用物件検索業務 任意の地点における道路占用物件の検索及び平面図・断面図を作成する。		
経過	開始年度	平成2年度	終了予定 なし
	平成2年度 財団法人道路管理センターに参画 平成11年度 道路占用許可申請等のオンライン化 平成24年度 電線共同溝管理システムの導入 平成27年度 電線共同溝占用許可申請等のオンライン化		
議会質問 の状況	特になし		
その他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 特別区は全て本システムに参加している。		

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		7,187	4,882	4,050	4,049	3,904	5,102
決算額（令和2年度は見込み）		7,147	4,881	4,045	4,043	3,892	5,102
財源	国						
	都						
	その他	7,147	4,881	4,045	4,043	3,892	5,102
一般財源		0	0	0	0	0	0
執行率（％）		99.4%	100.0%	99.9%	99.9%	99.7%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品の購入	99	需用費	消耗品の購入	37	需用費	消耗品の購入	100
役務費	占用回線使用料	114	役務費	占用回線使用料	115	役務費	占用回線使用料	117
委託料	システム保守点検	363	委託料	システム保守点検	262	委託料	システムデータ入力・保守点検	1,408
使用料及び賃借料	端末機借上	294	使用料及び賃借料	端末機借上	244	使用料及び賃借料	端末機借上	244
負担金及び交付金	システム運営費負担金	3,173	負担金及び交付金	システム運営費負担金	3,234	負担金及び交付金	システム運営費負担金	3,233

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	道路占用掘削復旧許可件数(道路管理システム分のみ)				単 位	件/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,600	R7	目標	1,600	1,600	1,600	1,600
				実績	1,592	1,524	1,548	1,676
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	各関係機関(電気、通信、ガス、水道、下水道等)の工事計画による許可件数とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	道路占用許可件数				単 位	件/年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
2,500		R7	目標	2,500	2,500	2,500	2,500	
			実績	2,461	2,351	2,189	2,466	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
ライフラインや突き出し看板及び足場・仮囲い等の占用許可件数とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	本システムについては、低価格、かつ、機能充実を道路管理センターへ求めていく。

課題・問題点
システム参加者から道路管理センターに対し、システム改善要望が多数出ているので、全ての対応には時間を要する。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	道路占用掘削復旧許可件数(道路管理システム分+ 自費工事分)				単 位	件/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,800	R7	目 標	1,800	1,800	1,800	1,800
				実 績	1,818	1,732	1,741	1,893
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	道路占用掘削復旧許可件数は今後も大きな変動はなく推移する。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	道路復旧立会い件数(小規模工事を除く)				単 位	件/年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
250		R7	目 標	250	250	250	250	
			実 績	264	264	236	304	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		250	250	250	250	250	250	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
大規模工事の立会い件数は各関係機関の工事計画によるが、今後も大きな変動はなく推移する。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	道路占用許可申請及び道路復旧立会いにおいて企業者を監督指導することで、適正な道路管理が図られる。

課題・問題点
各企業者が管理している施設の敷設状況や利用状況によって、道路占用工事の発生は影響を受ける。

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	自転車駐車場設置箇所				単位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1	30	目標	0	0	1	1
				実績	0	0	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標							
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	機械式駐車場を1か所設置することで放置自転車を減少させることができる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	放置自転車台数(錦糸町駅)				単位	台/年
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
300		30	目標	544	400	300	300	
			実績	437	214	146	118	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
機械式地下自転車駐車場を整備することで、放置自転車台数の減少につながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
廃止を検討	錦糸町駅周辺エリアにおける機械式自転車駐車場の整備が平成30年度に完了したため、自転車駐車場維持管理費へ移行する予定

課題・問題点
<p>時間貸しに対応するためには、現地に精算機の設置や車検要員の配置が必要となるため更なる支出が必要となる。錦糸町駅周辺の自転車駐車場利用数の減少が続いているため、機械式については、特に利用率の向上に努める必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	英語表記化した地点名標識の数(累計)				単 位	枚
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		135	R1	目 標	21	41	88	135
				実 績	21	41	109	135
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標							
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	整備数が実績となるため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	「区内の交通環境に満足している」区民の割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
82		R2	目 標	79		80.5		
			実 績	79		79		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	82							
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
外国人観光客のまち歩きなど、オリンピックに向けた観光振興を推進するため、案内標識を英語表記に改善することが、交通環境に満足している区民割合を高めることに繋がる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
廃止を検討	事業成果は多くの来街者や地域住民が恩恵を受けるものである。道路の連続性から、他の道路管理者である国及び東京都と連携し、区内全域の地点名標識を英語表記に改善する必要がある。東京2020オリンピック・パラリンピックまでに集中して整備した。

課題・問題点
令和元年度に整備を完了した。